

大学と地域の連携による「絵本の読み聞かせ」授業 －保育実践力の基礎を育むために－

金 娟 鏡*・堀之内 さち子**・黒 瀬 圭 子**

(2018年10月23日 受理)

Lecture on "Reading Picture Books" by Collaboration between University and
Regional Volunteers: Cultivating the Foundation of Childcare Practical Skills

KIM Yeonkyeong, HORINOUCI Sachiko, KUROSE Keiko

要約

本研究では、地域で絵本の読み聞かせの活動を行っている「かごしま文庫の会」から外部講師を招き、実演を交えた授業を行った。授業の最後にアンケート調査を実施し、本授業によって得られた学生の気づきなどを中心に、養成段階に必要な絵本の読み聞かせの基礎作りについて検討した。その結果、自由記述から【絵本の読み聞かせと環境作りの大切さへの気づき】【絵本の読み聞かせの導入と読み方の工夫】【学びの多い授業】【年齢に合った絵本の選び方】【幼稚園実習への意欲と思い出の振り返り】【心を惹きつける絵本の読み聞かせ体験】【楽しい遊び歌（わらべ歌・手遊び）】が抽出され、授業後の変化を尋ねた質問からも絵本の読み聞かせに関する知識と技術の増加が確認された。最後に、幼稚園実習との関連から、養成段階における保育実践力の基礎を育むためのより効果的な授業のあり方が述べられた。

キーワード：絵本の読み聞かせ、幼稚園、外部講師、連携、地域

* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系 准教授

** かごしま文庫の会

【問題】

絵本を子どもに見せながら読んで聞かせる「読み聞かせ」は、「読み語り」ともいわれ(杉山, 2008)、子どもの感性を豊かにし、言葉に対する感覚や想像力の発達に重要な役割を果たすことが広く知られている。そのため、幼稚園では絵本の読み聞かせを集団活動の一つ(金, 2016)として位置づけ、日常的に行っている。

藤岡・伊藤(2016)は、幼稚園における集団での読み聞かせについて、同じ絵本をみんなで共有することで、互いに心を通わせ、一体感が醸し出されること、また、家庭では個々の子どもの興味のある絵本を中心にしたり、聞いたりするが、幼稚園では、自分以外の友だちの興味や関心、保育のねらいに沿って、新しい絵本へ興味や関心を広げられることを述べている。他方で横山・水野(2008)は、一連の研究から、幼稚園での読み聞かせは、主に降園前や昼食前に行われていること、導入の際は手遊びなどを行い、集中しやすい環境を整えること、幼稚園教諭は眼前の子どもの反応をみながら、必要に応じて即興的に対応していることを明らかにしている。並木(2012)も、幼稚園教諭が導入や読み方を工夫することによって、子どもの絵本の内容に対する理解が深まるとともに、集団としての一体感もより醸成されるとしている。すなわち、幼稚園で行われる絵本の読み聞かせは、大人と子ども、子ども同士が時と場を共有し、興味や関心を広げながら、共に楽しんでいく過程であるとともに、その導入や読み方といった絵本の読み聞かせに関する知識と技術が、幼稚園教諭として必要な保育実践力になることがうかがえる。

絵本の読み聞かせに関連して、2002年に文部科学省による幼稚園教諭の資質向上に関する報告書『幼稚園教諭の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教諭のために—』では、幼稚園教諭に求められる実践的な専門性について、以下のように示されている。

(4) 得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性

幼稚園教諭は、具体的に保育を想定し総合的な指導を展開していくにあたり、それぞれの得意分野を有していることが求められる。それは例えば、体を動かすことを通じての指導であったり、あるいは読み聞かせなどの言語・表現活動の分野、障害のある幼児の指導であったりするかもしれない。(※下線は著者による)

また、同報告書では、現職の幼稚園教諭だけでなく、養成段階における課題と展望¹についても述べており、養成段階においては、将来、教員として得意分野を育成していく素地を形成し、本格的な得意分野の育成に努める現職段階への円滑な移行を図ることが求められる、としている。言い換えれば、現職段階の保育実践力は新任期からではなく、幼稚園教諭を目指す養成段階からその基礎を育み、将来へとつなげていく必要があることが明記されたのである。

¹ (1) 教員志望者自身の多様な体験の確保や得意分野の素地の形成、(2) 実践力の育成、(3) 教員養成のための教育環境の充実、(4) 上級免許状の取得や免許状及び資格の併有、(5) 幅広い幼稚園教諭志望者の確保、の5つの点について示された。

そこで、養成段階からの保育実践力の基礎作りについて、既述した絵本の読み聞かせと関連づけて考えると、養成段階にある学生を対象とし、その知識や技術の基礎を作る必要性が浮かび上がってくる。とくに、絵本の読み聞かせに関しては、幼稚園教諭になってから周囲のアドバイスを自身の研鑽により習得していく傾向（西川，2002）が指摘されており、学生のうちからその基礎を作ることは喫緊の課題といえる。

養成段階における絵本の読み聞かせの基礎作り

養成段階の学生を対象とした先行研究として、堀・小野瀬・芳賀（2014）は、外部講師による講義を実施した後、「絵本の読み聞かせにおいて注意すべき点、心がける点」について、学生に自由記述で回答を求めた。その結果、「非言語的表現方法（音声特性、表情、視線）」「準備」「心構え」「絵本の見せ方」「子どもとのやりとり」の5つの枠組みが得られ、これらの枠組みを通じて読み聞かせに関する知識への理解が高まったことを報告している。西川（2002）は、読み聞かせのガイダンスおよび実演場面をビデオで見せた後、学生に効果について振り返らせたところ、聞き手の気持ちを意識するようになり、聞きやすい読み方や見やすい絵本の持ち方を考えるようになったことを見出している。また、玉瀬（2005）は、学生1人ずつ順に、クラス全員に向かって絵本の読み聞かせを行う演習を実施した。その際、読み手を体験することで得られる気づきに焦点を当てるため、読み聞かせに先立って技術に関する説明を行わず、全員が読み聞かせを終えた時点で感想文を書かせた。その結果、学生は読み聞かせの技術の難しさを実感したことで、その困難さから間違えずに読むことよりも、声の大きさ、視線や表情などの非言語的表現方法の重要性に気づいたことを明らかにしている。

先行研究の課題と本研究の目的

上述の先行研究から、養成段階において絵本の読み聞かせに関する知識と技術を学ぶことの有効性が確認される。しかしその一方で、「誰」が「どのように」教えるかについては、さらに吟味する必要があると考えられる。

まず、「誰」が教えるかという点であるが、先行研究では、読み聞かせに関する知識を誰も教えない、または外部講師か、授業担当者などが教える、という形がみられた。近年、養成段階において、一方向的な知識伝達型の授業に対する反省（濱田，2017）から、学生の主体的な学びを重視し、知識を教え込まないことが望ましいとされている。しかし、「教え込まないこと」が教えないことや教えてはいけないことを意味するものではない。むしろ、主体的に考え行動するための足場かけ（scaffolding）として、読み聞かせに関する知識を教えることが必要ではないであろうか。玉瀬（2005）のように、事前に教えない場合でも気づくことは可能であるが、読み聞かせに関する知識を教えることで、体験による気づきを明確にしたり、補完することができると思われる。また、養成段階で教える場合においては、授業担当者が必ずしも絵本の読み聞かせの専門家とは限らない。こうした状況を勘案すると、その分野で活躍している外部

講師を招いた方が、現場に根ざした専門的で実践的な知識に触れることができ、学生の興味や関心の幅を広げることに役立つと考えられる。

次いで、「どのように」教えるかという点であるが、先行研究では、読み聞かせの技術を活かした実演を事前に見せない、またはビデオで見せる、という形がみられた。これについても、絵本の読み聞かせにあまり慣れていない養成段階においては、学生の前で見本となる実演を見せた方が一番効果的である（腰山，2006）ことが指摘されており、そのため、学生には実演に触れる機会を提供することが必要であるといえる。また、上述した外部講師が読み聞かせの知識を教えると同時に、技術を活かした実演を見せることができれば、その場の臨場感に支えられ、知識と技術のつながりを意識しやすくなると予想される。

以上を踏まえ、本研究では、養成段階の学生を対象に、保育実践力へつながる絵本の読み聞かせの基礎を作ることとし、外部講師による絵本の読み聞かせの授業を実施した。その際、幼稚園での絵本の読み聞かせは、保育のねらいや子どもの年齢に合わせた絵本の選定が重要であること、また子どもが集中しやすいように、絵本の読み聞かせへの導入を行う必要があることから、これらについて現場に根ざした実践力を有し、地域で活動されている「かごしま文庫の会」²から外部講師として招くこととした。さらに、授業の最後にアンケート調査を実施し、本授業によって得られた学生の気づきなどを中心に、養成段階に必要な絵本の読み聞かせの基礎作りについて検討した。

【方法】

1. 実施日および場所

2015年12月10日（木）2時限目（10:30-12:00）に、鹿児島大学教育学部第1講義棟305教室にて実施した。

2. 実施科目

第1著者の金が担当する教育学部科目「保育学Ⅱ（Early childhood care and educationⅡ）」に、「かごしま文庫の会」の会員である第2著者の堀之内、第3著者の黒瀬を第9回目の外部講師として招き、読み聞かせの授業を実施した。

「保育学Ⅱ」は、家政専修（現家政科）で開設する科目として、幼稚園教諭免許状必修科目であり、Ⅳ期（2年生後期）以降から履修可能である。授業では、幼児教育・保育がどのような子ども観や発達観に支えられ、どのような方法によって行われているかを具体的な事例を通して学び、実践に必要な基礎的能力を培うことをねらいとしている。なお、各回の授業内容は、

² かごしま文庫の会は、子どもの本に関心のある人々の学びや情報交換の場として、1985年に鹿児島県で結成された自主的な地域組織である。会員は30代から70代までの幅広い年齢層で構成されており、現在は会報『窓』の発行のほか、県内各地の図書館、公民館、育児サークル、幼稚園、保育園、幼保連携型認定こども園で、乳幼児を対象に絵本の読み聞かせを行うなど、地域活動に積極的に取り組んでいる。

以下の通りである（表1）。本授業は9回目に行われたものである。

表1 保育学Ⅱのシラバス

回	テーマ
第1回	幼児期とは
第2回	幼児教育・保育を学ぶとは
第3回	幼児教育・保育の方法（1）環境を通して行う保育
第4回	幼児教育・保育の方法（2）個と集団の育ち
第5回	幼児教育・保育の方法（3）基本的生活習慣に関わる部分
第6回	幼児教育・保育の方法（4）遊びに関わる部分
第7回	幼稚園教育要領における5領域
第8回	現場の事例（1）集団活動場面の展開
第9回	演習（1）絵本の読み聞かせの実際
第10回	現場の事例（2）遊びの生成と展開
第11回	演習（2）製作遊びの実際
第12回	現場の事例（3）基本的生活習慣の形成を促す園内環境の工夫
第13回	現場の事例（4）遊びを促す園内環境の工夫
第14回	未就園児保育および預かり保育
第15回	幼児教育・保育から初等教育へ

3. 受講生：53人

性別については、女性が50名（94.3%）、男性が3名（5.7%）であった。次いで、学年については、2年生が32名（60.3%）、3年生が11名（20.8%）、4年生が10名（18.9%）であった。受講生のうち、2年生および3年生は幼稚園実習を経験していなかったが、4年生は幼稚園実習を経験していた。そのため、幼稚園実習を経験していなかった学生は43名（81.1%）、幼稚園実習を経験した学生は10名（18.9%）となった。

4. 地域からの外部講師による「絵本の読み聞かせ」の実際

第2著者の堀之内および第3著者の黒瀬が実演に解説を加えながら授業を行った（表2）。解説に際しては、堀之内・黒瀬が用意した資料を配布し、「絵本のすばらしい力」「選書の大切さ」「年齢ごとの絵本の紹介」「読み聞かせを行う際の注意点」などについて具体的に伝えた。

表2 かごしま文庫の会による「絵本の読み聞かせ」の実際

シーン		内容	時間 (分)
S1 黒瀬		導入として、小道具を使った遊び歌「にぎりばっちりたてよこひよこ」の紹介。歌いながら、両手を合わせて上下に振る。最後に、手の中から、小さく丸めていた黄色のオーガンジーを、まるでひよこのように出して見せる。	02:17
S2 黒瀬		遊び歌「だいこんつけ」の紹介。「～裏返し」のところで手の甲をひっくり返して、手の平を上に向ける。 学生たちに何の野菜をつけたいかを尋ねると、「きゅうり」という答えが返ってくる。今度はだいこんをきゅうりに替え、「きゅうりつけ～」と歌い始める。	03:16
S3 堀之内 ・ 黒瀬		大人と子どもがペアで行う遊び歌「はなちゃんりんごを」の紹介。大人は、たとえば「～りんごを」というところで、人差し指で子どものほおを軽くつつくなど、子どもの顔の部位を触りながら、比喩する言葉を添える。	03:00
S4 堀之内 ・ 黒瀬		遊び歌「べったらべったん」「てんやのおもち」の紹介。大人と子どもが向かい合い、左手の平を上にして、右手で自分の手の平、または相手の手の平を歌に合わせて打つ。学生たちも隣の人の手の平を歌に合わせて打つ。	03:29
S5 黒瀬		乳児向けの絵本の読み聞かせの実演。白いバックの中からくまちゃん（パペット）が現われ、「おはようございます」と挨拶する。「じゃ、お散歩に行くね。一本道をテクテク～」、くまちゃんはお散歩から戻ると、白いバックの中へ去っていく。	04:56
		「次は何が出るかな?」、再び白いバックの中を覗くと、『でてこい でてこい』が出てくる。読み聞かせを行う。	
S6 堀之内		幼児期前半向けの読み聞かせの実演。指先にキャベツ、いも、にんじん、まめ、ごぼう、手の甲にだいこんが付いた手袋人形が登場する。「この中で、誰が一番おいしいかな?」、お鍋に入れてコトコト煮立てると、おいしい野菜スープが出来上がる。「はい、どうぞ」	04:00
		手袋人形を外し、『おつきさまこんばんは』の読み聞かせを行う。	

シーン		内容	時間 (分)
S7 黒瀬		配布資料に基づいて、子どもの年齢ごとの絵本の読み聞かせについて、エピソードを交えながら説明を行う。	13:36
S8 黒瀬		乳児・幼児期前半向けの絵本の読み聞かせの実演。『ごぶごぶ ごぼごぼ』の読み聞かせを行う。 合わせて、『もこもこもこ』を紹介する。	02:47
S9 黒瀬		乳児・幼児期前半向けの絵本の読み聞かせの実演。 『おにぎり』および『どうすればいいのかな』の読み聞かせを行う。読み聞かせの演じ方を説明する。	04:04
S10 黒瀬		幼児期後半向けの絵本の特徴と読み聞かせの実演。 『うさこちゃんのさがしもの』の特徴を解説する。また、『おおきなかぶ』『三びきのやぎのがらがらどん』『てぶくろ』『ちいさなねこ』の読み聞かせの演じ方と注意事項を説明する。	14:54
		『ダンゴムシ みつけたよ』『わたし、くわがた』『ぐりとぐら』の読み聞かせの演じ方と注意事項を説明する。縦書き絵本『さるとかに』を紹介する。	
S11 黒瀬		幼児期後半向けのハンガリーの指遊びの紹介と絵本の読み聞かせの実演。 親指を立て「この私の親指がりんごの木～」から始め、順に指を立てていき、「～小指が全部食べた」で終わる。次いで、『びっくりまつぼっくり』の読み聞かせを行う。	02:45
S12 堀之内		幼児期後半向けの絵本の読み聞かせの実演。 『さんびきのがらがらどん』の読み聞かせを行う。	05:26
S14 黒瀬		小道具の作り方の説明。絵本のカバーを使った小道具など、見本を提示する。 絵本の読み聞かせに関連した参考文献を紹介する。	04:54
S15 黒瀬		手遊びの実技。「あんころもち」を紹介し、歌と手遊びの手順を見せ示すと受講生も一緒に行う。	03:16

【結果】

「絵本の読み聞かせ」の実演と解説の後、第1著者の金が授業の効果を確認するために、アンケート調査を実施した。分析に際してはSPSS Statistics 24 およびKH Coder (Ver.3.Alpha.14)³を用いた。

1. 本授業を受ける前に読んだ絵本

授業前に絵本を読んだ時期については、平均16.9歳(SD=5.41)、範囲は3歳～23歳までと幅広かった。読んだ絵本のタイトルについては、53人のうち35人から回答が得られ、ロングセラー絵本と呼ばれる『ぐりとぐら』『100万回生きたねこ』『はらぺこあおむし』『はじめてのおつかい』に関しては、複数の受講生から同一の回答が見られた。その他、『せんたくかあちゃん』『だるまさんが』『うまれてくれてありがとう』『ねこガム』などの回答が見られ、さまざまな絵本を読んだことがわかった。

2. 本授業への感想や気づき

本授業を通して感じたことや気づいたことを具体的に把握するため、自由記述形式で授業感想を求めた。

(1) 頻出語

全体的な傾向を把握するため、どんな言葉が出現しているかを探った。自由記述に書かれた366の文を対象とし、KH Coderを用いて頻出語を抽出した結果、助詞などを除いて、総抽出語数(すべての語の延べ数)は10,489、異なり語数(何種類の語が含まれていたかを示す数)は1,050が得られた⁴。

なかでも、特に出現頻度が高い150語を表3に示す。もっとも出現頻度が高かったのは「絵本(221回)」であり、次に「子ども(133回)」「思う(122回)」「読む(110回)」「感じる(44回)」「今日(44回)」「知る(37回)」「自分(35回)」「大切(35回)」～「引き出す(3回)」「タイミング(3回)」「温かい(3回)」「確か(3回)」「楽しめる(3回)」「感性(3回)」であった。これらは、子どもへの絵本の読み聞かせが大切であることを自ら実感し、授業で学んだ知識や技術を意味づけたものと読み取れる。

³ 自由記述のような文章型データの探索的な解析アプローチに適している。

⁴ ただし、KH Coderは、たとえば「楽しかった」「楽しく」「楽しければ」などは、すべて「楽しい」という1種類の語として抽出する。つまり、活用を持つ語は動詞、形容詞、形容動詞にかかわらず、すべて基本形として抽出している(川端・樋口, 2003)。

表3 自由記述から得られた頻出語の抽出結果

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
絵本	221	合う	9	大きい	5
子ども	133	小学校	9	注意	5
思う	122	多い	9	入る	5
読む	110	導入	9	反射	5
感じる	44	ページ	8	表情	5
今日	44	機会	8	雰囲気	5
知る	37	合わせる	8	話	5
自分	35	参考	8	カーテン	4
大切	35	思い出す	8	安心	4
選ぶ	32	受ける	8	意識	4
聞く	32	初めて	8	関心	4
年齢	28	世界	8	喜ぶ	4
学ぶ	23	大人	8	技術	4
わらべ	22	変わる	8	強調	4
興味	22	理解	8	教える	4
お話	21	ありがとう	7	響く	4
今	21	今回	7	繰り返す	4
授業	19	実演	7	効果	4
前	19	終わる	7	向く	4
たくさん	18	選び方	7	好き	4
見る	18	選書	7	今後	4
小さい	18	知識	7	時期	4
工夫	17	伝える	7	実践	4
考える	17	必要	7	主人公	4
勉強	17	応じる	6	種類	4
良い	17	懐かしい	6	触れ合う	4
内容	16	覚える	6	新しい	4
先生	15	嬉しい	6	生かす	4
言葉	14	講義	6	大学生	4
持つ	14	時間	6	入れる	4
幼稚園	14	実際	6	背景	4
実習	13	想像	6	非常	4
環境	12	体験	6	閉める	4
残る	12	読み込む	6	変える	4
手遊び	12	難しい	6	友だち	4
重要	12	発達	6	湧く	4
読み方	12	優しい	6	流れ	4
遊び	12	幼い	6	練習	4
楽しむ	11	さまざま	5	いろいろ	3
使う	11	ワクワク	5	イメージ	3
惹く	11	意味	5	ストーリー	3
気づく	10	横書き	5	右手	3
気持ち	10	学べる	5	扱う	3
集中	10	活動	5	一番	3
多く	10	強い	5	引き出す	3
本当に	10	言う	5	タイミング	3
面白い	10	向ける	5	温かい	3
違う	9	行う	5	確か	3
印象	9	少し	5	楽しめる	3
楽しい	9	成長	5	感性	3

(2) 共起ネットワークによる可視化

出現した語同士がどのように関連しているかを探るため、出現位置に近い語同士のつながりを共起ネットワークで示した。共起ネットワークとは、共起関係を線で結んだネットワークとして、出現頻度の高い語ほど大きい円で描かれ、どの程度中心的な役割を果たしているかが示される（松田・大谷・堀井・杉田・荒川・近藤・江尻・梅田・中山・牧野，2012）。また、共起関係の強い語ほど太い線で描かれ、そのまとまりが同じ色でグループ化されるため、視覚的に把握しやすい利点がある（樋口，2014）。

図1に示した共起ネットワークから、出現した語同士は7つのグループに分かれることがわかった。そこで、KH Coder の KWIC のコンコダンスのコマンドを用いて、各グループの語同士が自由記述の中でどのように位置づけられているかを照らし合わせて確認した。なお、IDナンバーは受講生ごとに付したものである。

一つ目は、図1の中心部に見られた「絵本」「子ども」「読む」「思う」「感じる」「大切」「環境」「気づく」といったまとまりで、以下の自由記述を踏まえると、【絵本の読み聞かせと環境作りの大切さへの気づき】を表すものと考えられた。

- ID.4 教育の現場にこのような絵本のプロの方がきてくださることで、子どもはもちろん喜びますが、学生側もとても勉強になり、絵本の大切さについて体感することができます。私も今後、出会う子どもたちにたくさんの本を読んでいきたいと思います。
- ID.49 絵本が子どもにとってどれだけ大切なのかに気づかされました。絵本でしか学べないこともたくさんあって、心の教育になったり、子どもが成長するに当たり、子どもの成長につながったりと、絵本の力はすごく大きなものだと思っています。
- ID.34 この講義で絵本についての理解がとても深まった。絵本の大切さは前々から感じていたが、具体的に理解できて本当にためになった。
- ID.38 今回は幼児と絵本について多くのことを学ぶことができて、とても勉強になりました。まず、読み聞かせをする上で「環境が大事だ」ということが印象に残りました。おもちゃを片づけたり、カーテンを閉めたりして、環境を整えてから集中させるように配慮することの大切さについて、今まであまり考えていなかったので、気をつけたいと思います。

二つ目は、「聞く」「重要」「読み方」「お話」「使う」「言葉」といったまとまりで、以下の自由記述を踏まえると、【絵本の読み聞かせの導入と読み方の工夫】を表すものと考えられた。

- ID.16 子どもたちを集めていきなり絵本を読むと、まだお話を聞く準備ができていない子どももいると思うので、わらべ歌や手遊びで子どもの関心を高めてから読み始める、ということはとても重要だと思った。
- ID.20 声の大きさ、スピード、強弱がとても絶妙で、ページを聞くタイミング、間の取り方など、安心して聞くことができ、また、とてもワクワクしながら聞くことができた。自分は幼稚園教諭を志望しているので、わらべ歌、手遊び、読み聞かせの技術は習得

したいし、少しでも経験しておく必要があるなど感じた。0歳頃の赤ちゃんは、擬音だけの絵本もあり、読み方に工夫が必要だということを学んだ。自分も今のうちに絵本をいろいろ読んでみたいと思った。

- ID.21 『くまさんのおでかけ』や『やさいのすーぶ』では、小さい子どもは言葉だけで話を捉えることが難しいということで、視覚的に働きかけられる道具を使っているということがわかった。

三つ目は、「今日」「授業」「学ぶ」「多く」といったまとまりで、以下の自由記述を踏まえると、【**学びの多い授業**】を表すものと考えられた。

- ID.1 今日、絵本について授業を受けて改めて絵本の魅力を感じるとともに、思いや絵・言葉を人に伝えるためには様々な工夫をする必要があることを強く感じた。
- ID.32 絵本の読み聞かせについて、多くのことを学ぶことができました。今後とても自分のためになるなど思いました。
- ID.51 今まで子どもたちに絵本の読み聞かせをしたことはないけれど、絵本の持ち方や絵と文をしっかりと関連させること、また、写真を用いた絵本では光の具合によっては反射し、見えづらくなってしまう、ということなど、多くのことを学ぶことができた。自宅に幼い頃読んでいた絵本が数冊あるが、その他にもさまざまな絵本を集めたいと思った。そして、子どもたちに伝えたい内容や知ってほしい本などの知識を今の段階から、蓄えていきたい。今日の授業は本当にあつという間で、楽しく学べる時間でした。

四つ目は、「選ぶ」「年齢」「知る」「たくさん」といったまとまりで、以下の自由記述を踏まえると、【**年齢に合った絵本の選び方**】を表すものと考えられた。

- ID.14 絵本を選ぶとき、メッセージ性の強いものや絵のかわいいものをつい選んでしまいがちだったのですが、年齢ごとに合う絵本が違うことを実際に読み聞かせてもらうことで、とても実感できました。また、「主人公を友だちにしたい本」や「長い年月を経ても読み続けられている本」など、絵本を選ぶ際の具体的な基準も参考になりました。
- ID.23 絵本が重要なことは知っていたけど、今回の講話を聞いて、さらに重要性があることを知った。年齢に合った絵本の種類や絵のスタイルなど、ただ読んで読むのではなく、多くのことに注意しながら読むことが大切だとわかった。
- ID.7 幼稚園実習の際、絵本を持って来てくださいと言われて、どんなものが良いのかわからず、たくさんある絵本の中から選ぶのは大変だったが、どのような視点で選べば良いのかわかり、将来学校や家庭で、子どもたちに絵本を読んであげる時の参考にしたいと思った。

五つ目は、「自分」「考える」「実習」「幼稚園」「面白い」「前」「遊び」「今」「小さい」「残る」といったまとまりで、以下の自由記述を踏まえると、【幼稚園実習への意欲と思い出のふり返り】を表すものと考えられた。

- ID.8 今日、実演とともに学ぶことができ、とても良かったです。幼稚園実習では、このような知識がないまま選んでしまったため、勉強不足だったなと感じました。幼稚園実習の前に知りたかったなと思いました。
- ID.18 来年には幼稚園の実習があるので、それまで、これまで読んだことのない絵本や読み聞かされている絵本などをたくさん読んでみたいと思う。
- ID.10 大学生でも夢中になってしまっている自分に気づいて、絵本は大人になっても面白いなというふうに思います。
- ID.27 自分の小さい頃を思い出し、どんな風な読み聞かせが子どもたちの心に残るのか、考えながら練習していきたいと思った。
- ID.33 堀之内先生と黒瀬先生に読み聞かせをしていただいて、自分が小さかった頃によく親に読み聞かせをしてもらっていたことを思い出し、懐かしくなりました。もう20歳になる私も、今日何冊か絵本を読んでいたことで、とても想像が膨らみ、なんだか心が豊かに、穏やかになった気がしました。
- ID.42 いくつか聞いたことのある歌があり、今になって、昔読み聞かせをする前にしていた遊び歌をする意味などがわかりました。やはり、いきなり読み始めると切り替えが難しいと思うので、みんなで集中して遊び歌をするのは良いと思った。

六つ目は、「先生」「興味」「持つ」「惹く」といったまとまりで、以下の自由記述を踏まえると、【心を惹きつける絵本の読み聞かせ体験】を表すものと考えられた。

- ID.6 教訓などよりも、子どもが楽しめるかどうかで絵本は選ぶべきだというのが、とても共感できて、子どもがまず興味を持つこと、それが大事なんだと思った。
- ID.24 ただ絵本を読むのではなく、絵本を読む前にわらべ歌や手遊びを入れて導入を行ったり、絵本を読んだ後にもわらべ歌や手遊びを入れてお終いにしたりしていて、子どもたちの興味を最初から最後まで惹きつけていた。子どもたちは、こうした読み聞かせに集中して、絵本の世界に入っていくんだなと感じた。読み聞かせは人を安心させ、気持ちを和ませてくれるものを感じた。
- ID.44 先生方の読み聞かせでは、自然と物語に惹きこまれるような感覚がして、集中して聞くことができた。自分も先生方のような読み聞かせができるように、多く学んでいきたい。

七つ目は、「わらべ歌」「手遊び」「楽しむ」といったまとまりで、以下の自由記述を踏まえると、【楽しい遊び歌（わらべ歌・手遊び）】を表すものと考えられた。

- ID.15 わらべ歌はとても短い歌で、その中で食べたものが登場したり、手を歌に合わせて動かしたり、子どもと触れ合ったりさまざまなことができ、小さい子どもたちもとても喜ぶだろうなと思いました。読み聞かせの始まりや終わりに、わらべ歌で子どもたちと打ち解けることができるので、私も他のわらべ歌も覚えて実践してみたいなと思いました。
- ID.18 今日は絵本の読み聞かせや手遊びの仕方、その注意点について、実際に見て楽しみながら学ぶことができました。
- ID.31 絵本を読む前は、わらべ歌や手遊びで子どもと一緒に遊び（これも小さい子には繰り返すことで楽しんでもらえる！）、絵本につなげる流れはすごいと思いました。すんなり絵本に集中できました。

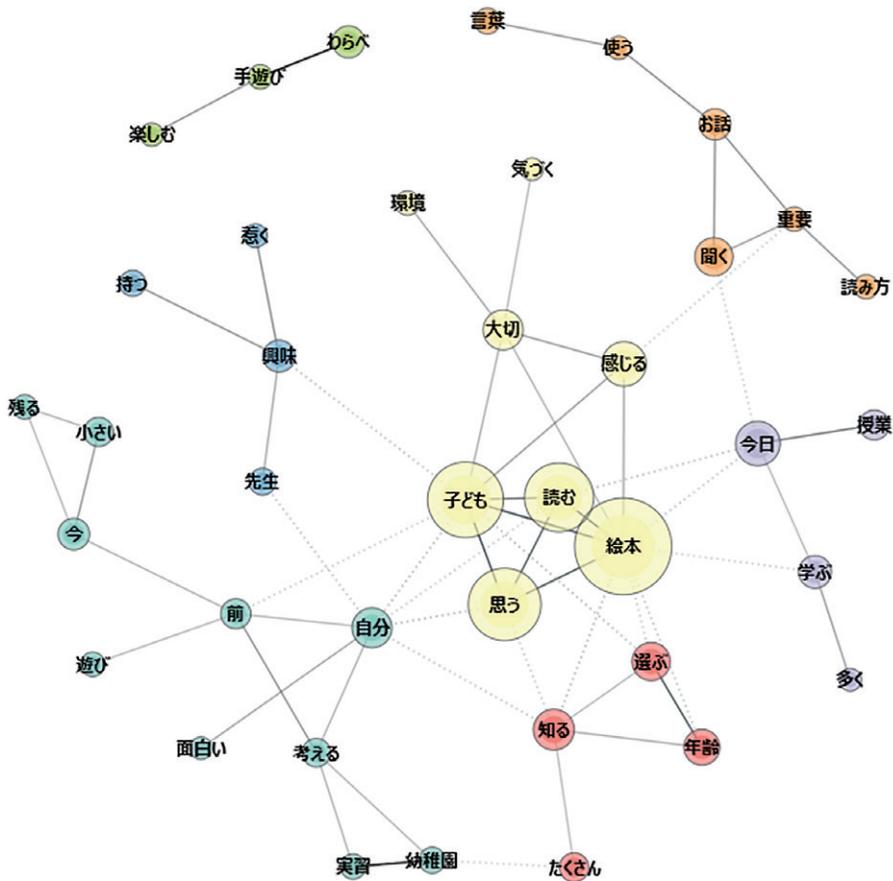


図 1 自由記述の共起ネットワーク

3. 本授業を受けたことによる変化

本授業を受けた後で、①絵本に対する興味、②絵本の読み聞かせの重要性の認識、③乳児向けの絵本についての知識、④幼児向け絵本についての知識、⑤遊び歌（わらべ歌・手遊び）についての知識、⑥小道具についての知識、⑦絵本の選び方についての知識、⑧読み聞かせの環境作りについての知識、⑨読み聞かせの導入についての技術、⑩読み方についての技術、⑪読み聞かせの終わり方についての技術、のそれぞれに対して、どの程度変化を感じたかを尋ねた。回答については「1. とても減った」「2. やや減った」「3. 変わらない」「4. やや増えた」「5. とても増えた」の5件法で求めた。得点が高いほど、授業を受けたことによって増加したと感じることを意味する。

受講生の学年による差があるかどうかを検討するため、各項目ごとに一元配置分散分析を行った。しかし、いずれにおいても、有意差は認められなかった。他方で、幼稚園実習経験の有無による差があるかどうかを検討するため、各項目ごとに t 検定を行った。その結果、表4に示すように、「⑤遊び歌（わらべ歌・手遊び）についての知識」において有意差が認められ、幼稚園実習経験が無い方の得点が高く ($t(49)=1.84, p<.10$)、遊び歌（わらべ歌・手遊び）についての知識が増えたと感じることが明らかになった。また、「⑦絵本の選び方についての知識」において有意差が認められ、幼稚園実習経験がある方の得点が高く、選び方についての知識が増えたと感じることが明らかになった ($t(49)=-3.58, p<.001$)。

表4 本授業を受けたことによる変化

項目	得点の平均値 (SD)		t 検定
	幼稚園実習経験無し	幼稚園実習経験あり	
①絵本に対する興味	4.7 (0.51)	4.9 (0.33)	n.s.
②絵本の読み聞かせの重要性の認識	4.8 (0.40)	4.9 (0.33)	n.s.
③乳児向けの絵本についての知識	4.6 (0.49)	4.7 (0.50)	n.s.
④幼児向けの絵本についての知識	4.6 (0.49)	4.4 (0.53)	n.s.
⑤遊び歌（わらべ歌・手遊び）についての知識	4.4 (0.63)	4.1 (0.33)	†
⑥小道具についての知識	4.3 (0.65)	4.1 (0.33)	n.s.
⑦絵本の選び方についての知識	4.8 (0.43)	5.0 (0.00)	***
⑧読み聞かせの環境作りについての知識	4.5 (0.63)	4.6 (0.53)	n.s.
⑨読み聞かせの導入についての技術	4.5 (0.55)	4.4 (0.53)	n.s.
⑩読み方についての技術	4.6 (0.58)	4.6 (0.53)	n.s.
⑪読み聞かせの終わり方についての技術	4.5 (0.55)	4.3 (0.71)	n.s.

注)***は $p<.001$, †は $p<.10$

4. 絵本の読み聞かせに対する自己効力感

本授業を受けて、絵本の読み聞かせを行うことができるという信念、すなわち絵本の読み聞かせに対する自己効力感がどの程度得られたかを尋ねた。具体的には、「絵本の読み聞かせに自信が持てる」ことに対して、「1. まったく当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. どちらでもない」「4. やや当てはまる」「5. とても当てはまる」の5件法で尋ねた。得点が高いほど、絵本の読み聞かせに対する自己効力感が高まったことを意味する。その結果、得点の平均値は3.4点 (SD=0.74) であり、中央値を超える高得点が得られた。

【考察】

本研究では、絵本の読み聞かせに関して現場に根ざした実践力を有し、地域で活動されている「かごしま文庫の会」から外部講師を招き、実演と講義を交えた授業を行った。その後に実施したアンケート調査の結果を踏まえて、養成段階に必要な絵本の読み聞かせの基礎作りについて述べる。

まず、自由記述で得られた頻出語および共起ネットワークを通して、絵本の読み聞かせを行うために必要な知識や技術が得られたことを明らかにすることができた。西村（2017）は、熟達者による絵本の読み聞かせを体験した大学生の感情状態を分析した結果、子どもの頃に絵本を読み聞かせてもらった思い出が想起され、そのことがノスタルジア（懐かしさ）を喚起させ、心地よさ、情緒的安定感をもたらしたことを報告している。本研究においても、高い実践力を有した外部講師が絵本の読み聞かせを実演したことで、受講生にノスタルジアを喚起させ、情緒的安心感をもたらした。絵本の読み聞かせの大切さを気づかせることにつながったといえる。また本研究では、これに加え、子どもの頃に経験した読み聞かせの導入、読み方などが再解釈され、それらが子どもの気持ちへの理解につながり、幼稚園実習に対する意欲に結びつくことも見出された。ノスタルジア（懐かしさ）の喚起によって、情緒的安心感だけでなく、子どもの気持ちへの理解を深める可能性が示唆されたのである。

次いで、授業後に感じた変化を尋ねた質問のうち、11項目すべてにおいて中央値を超える高得点が得られた。また、絵本の読み聞かせに対する自己効力感においても、中央値を超える高得点が得られ、授業後に絵本の読み聞かせに関する知識や技術が増えたことや自己効力感が得られたことが数値として裏づけられた。

ただし、興味深いことに「遊び歌（わらべ歌・手遊び）についての知識」および「絵本の選び方についての知識」については、幼稚園実習経験の有無による違いが見られた。白石（2004）によれば、幼稚園実習前の学生に幼稚園教諭になるために習っておきたいと思われる内容を自由記述で尋ねたところ、手遊びが言及されていたとのことである。本研究でも、幼稚園実習を経験していない受講生の方が「遊び歌（わらべ歌・手遊び）についての知識」が増えたと感じることが明らかになった。すでに幼稚園実習を経験した受講生の場合は、実習中に遊び歌（わらべ歌・手遊び）を経験した可能性が高い。それに比べて、幼稚園実習を経験していない受講生の場合は、普段の生活では遊び歌（わらべ歌・手遊び）を経験する機会があまりなく、そのため、授業中に行った遊び歌（わらべ歌・手遊び）の実技の体験が相対的に自分が関わっているという自我関与の感覚（小沢・大島・森本，2008）を高め、積極的に受け入れようとしたのではないかと考えられる。

一方で、「絵本の選び方についての知識」については、幼稚園実習を経験した受講生の方が増えたと感じることが明らかになった。これは幼稚園実習に際して困ったこと（「ID.7 幼稚園実習の際、絵本を持って来てくださと言われて、どんなものが良いのかわからず、たくさんある絵本の中から選ぶのは大変だった」など）が想起されて、その重要性をより意識するように

なったためと推測される。また、幼稚園実習中に子どもと接したことで、年齢によってできることや興味が異なることを実感し、子どもの年齢に合った絵本の選び方をもっと学びたいという必要性が高まったことも関連していると考えられる。

幼稚園実習は、養成段階と幼稚園教諭という現職段階への架け橋の役割を担っている。そのため、養成段階において絵本の読み聞かせの基礎を作り、幼稚園教育実習につなげることで、現職段階の保育実践力を向上させる一助となると考えられている。本研究の結果からも、幼稚園実習に送り出す前に、高い実践力を有する地域の外部講師によって絵本の読み聞かせに関する知識と技術を教えることの有効性が示された。それに加え、幼稚園実習後においても、座学で実習全般を振り返ることに留まらず、現場に根ざした実践力を有する地域の外部講師との連携を図り、実演を交えながら絵本の読み聞かせに関する知識と技術を教えることの必要性が示唆される。こうした積み重ねによって、養成段階から現職段階へつながる保育実践力の基礎をより効果的に育むことが期待できるであろう。

【引用文献】

- 藤岡久美子・伊藤恵里奈 2016 幼稚園における絵本の読み聞かせの選書の分析－3年間の記録から－ 山形大学教職・教育実践研究 (11) pp.59-68
- 濱田晴明 2017 「アクティブラーニング」導入に関する指導者の捉えについての一考察 日本体育学会大会予稿集 67 p.293
- 樋口耕一 2014 『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－』 ナカニシヤ出版
- 堀 由里・小野瀬剛志・芳賀 哲 2014 保育者養成課程における学生の読み聞かせ指導に関する一考察 研究紀要青葉 5 (2) pp.103-107
- 川端 亮・樋口耕一 2003 インターネットに対する人々の意識－自由回答の分析から－ 大阪大学大学院人間科学研究科紀要 29 pp.161-181
- 金 娟鏡 2016 萌芽的読書としての幼児の自発的な絵本読み－5歳児クラスのエピソード記述による探索的研究－ 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要(特別号6) pp.197-204
- 腰山 豊 2006 『保育実践力を高める－短大授業の改善と実技・演習－』 春風社
- 松田麗子・大谷かがり・堀井直子・杉田豊子・荒川尚子・近藤暁子・江尻晴美・梅田奈歩・中山奈津紀・牧野典子 2012 成人看護学演習における演習補助者との連携教育－KH Coderを用いた演習補助者のアンケートの分析から－ 生命健康科学研究所紀要 8 pp.121-129
- 文部科学省 2002 『幼稚園教諭の資質向上について－自ら学ぶ幼稚園教諭のために』 報告書
- 並木真理子 2012 幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響 保育学研究 50 (2) pp.165-179
- 西川宏子 2002 保育学生における絵本の読み聞かせの理論及び方法の修得に関する研究－絵本を読み聞かせられる立場に立つ経験を取り入れることを通して－ 中国学園紀要 (1) pp.37-41
- 西村太志 2017 熟達者による絵本読み聞かせ体験中の大学生の反応と感情状態、子育て意識の関連性 広島国際大学心理学部紀要 4 pp.63-70
- 小沢一仁・大島 武・森本倫代 2008 大学における授業のあり方を考える－「講演型授業」「参加型授業」「教育方法・技術の習得を目指す技術習得型授業」の実践を通して－ 東京工芸大学 工学部紀要人文・社会編 31 (2) pp.76-89
- 白石敏行 2004 幼稚園教諭の資質向上のためのカリキュラムに関する研究 教育実践総合センター研究紀要 18 pp.87-96
- 杉山喜美恵 2008 学生の読み聞かせに関する現状と認識－教育実習における読み聞かせ状況の分析から－ 東海女子短期大学紀要 34 pp.59-68
- 玉瀬友美 2005 幼児保育専攻学生における絵本の読み聞かせに関するとりえの変化－読み聞かせ体験をととして－ 読書科学 49 (2) pp.53-60
- 横山真貴子・水野千具沙 2008 保育における集団に対する絵本の読み聞かせの意義－5歳児クラスの読み聞かせ場面の観察から－ 教育実践総合センター研究 (17) pp.41-51